

はじめに

企業と社会フォーラム（JFBS）学会誌第8号は、「企業と社会の戦略的コミュニケーション」をテーマとした第8回年次大会での議論を踏まえその後の研究成果をとりまとめ、さらに投稿論文等を加え構成されている。

いま企業に限らずNPO/NGOやそれ以外の組織は、さまざまなステイクホルダーと積極的なコミュニケーションを図るようになってきている。企業とステイクホルダー間のコミュニケーションは、パブリック・リレーションズあるいはコーポレート・コミュニケーションという言葉で理解されてきたが、近年は企業が影響を与えるあるいは受けるステイクホルダーごとにコミュニケーションを図り、時間をかけてエンゲージメントを行うことが重要な課題となっている。従業員とのエンプロイヤー・リレーションズ、消費者とのカスタマー・リレーションズ、取引先とのサプライヤー・リレーションズ、投資家や調査機関とのインベスター・リレーションズ、地域社会とのコミュニティ・リレーションズ、報道機関とのメディア・リレーションズといったことをトータルに捉えること、そしてそれぞれの課題の重要性、優先順位を定めて調整していくことが求められている。

たとえば投資家とのコミュニケーションでは、ESG投資市場の拡大に伴い企業は機関投資家や評価機関からの声に対応を求められるようになってきている。ESGのデータ分析や評価を行う調査機関は、主に企業が開示している情報をベースにチェックしているため、企業側の情報発信の正確性、信頼性がますます求められるようになってきている。2016年にはGRIから改良されたレポーティング基準が発表されたが、日本の多くの企業もこの基準に沿って非財務の情報開示を行うようになってきている。社会的課題へのかかわりなどをサステナビリティ・レポートや統合報告書にまとめ企業HPで発信すると同時に、消費者やコミュニティに向けて小冊子や動画やSNSなどを通じてコミュニケーションを取ることや、従業員向けに自社の取り組みの目的や進捗などを定期配信するなど、丁寧なコミュニケーション戦略が求められるようになってきている。

企業と社会フォーラム第8回年次大会は2018年9月6日（木）、7日（金）の2日間にわたり早稲田大学にて開催された。今大会のテーマは企業サイドからは広報の視点が欠かせないが、幸いにも日本広報学会の協力を得ることができ、充実した大会となった。大会には日本のみならず、イギリス、スウェーデン、タイ、台湾、中国、ドイツ、バングラデシュなどからも多くの参加者が集まった。学界、産業界、労働界、NPO/NGOなど各セクターから多面的な議論が繰り広げられた。

大会はサステナビリティ報告書研究の第一人者でイギリスDurham大学教授のCarol Adams氏、およびアメリカの大手PR会社Burson-Marsteller日本法人の代表取締役社長福永朱里氏による基調講演、それに引き続いての全体セッションから始まった。企画セッションでは「広報から見たCSRとコミュニケーション」（日本広報学会との共催セッション）、「消費者とのコミュニケーション」、「投資家や投資機関とのコミュニケーション」、「メディア・コミュニケーション」、「ESG関連リスク対応の実務—日本弁護士連合会、ESG関連リスク対応におけるガイダンス（手引）の解説—非財務情報開示・ESG融資における審査」をテーマに、企業および団体による具体的な取り組みの紹介とパネルディスカッションが行われた。

自由論題報告セッションでは“Environmental Management”, “Environmental/CSR Management”, “Social Innovation and Entrepreneurship”, “CSR Communication”, “International Business Strategy”などのセッションに分かれて、全部で20本の研究報告・ケース報告がなされ、活発な議論・交流が行われた。

本大会では Carol Adams (Professor, Durham University, UK), 今津秀紀 (凸版印刷部長), Sarah Jastram (Professor, HSBA Hamburg School of Business Administration, Germany), 大平修司 (千葉商科大学教授), René Schmidpeter (Professor, Cologne Business School, Germany), 菌部靖史 (東洋大学准教授), 谷本寛治 (早稲田大学教授) がプログラム委員会を構成し、大会プログラムの立案、自由論題報告および Doctoral Workshop のプロポーザルの審査、企画セッションの司会などを担当した。

本学会誌にはこの年次大会のテーマに関する「イントロダクション」, 「招待論文」, 「事例紹介・解説」, 「投稿論文」が収められている。投稿論文に関しては、JFBS 編集委員会 (委員長 國部克彦 神戸大学教授) による審査 (double-blind review) が行われ、今回は投稿された4本の論文のうち1本が掲載されることとなった。今後も積極的な投稿を願っている。

2019年9月の第9回年次大会においては、「サステナビリティ人材の育成と経営教育」(CSR/Sustainability in Management Education) をテーマとして議論を行う。企業が社会的に責任ある経営を行ったり、サステナビリティ課題に取り組んでいくには、複雑で多様な課題をトータルに理解し、セクターを超えた議論・協働を実践できる人材が求められる。サステナビリティ・マインドをもった人材を大学や実践の場でどのように育てていくかは大きな課題であり、本大会において広く議論する予定である。詳しくは JFBS のウェブサイトを参照されたい <http://j-fbs.jp/>。多くの研究者、実務家の積極的な参加、議論を期待している。

最後に、今号も発行に当たっては千倉書房に大変お世話になった。記して感謝の意を表したい。

2019年5月

企業と社会フォーラム会長
早稲田大学商学大学院商学部教授
谷本 寛治